

# ネットワーク

全北海道教職員組合 障教部通信 2011/No. 2

## 全国障教部代表者会議報告

道教組障教部部長 渡邊 悌

11月6日(日)に全国障教部代表者会議が全国教育文化会館で行われ、道教組から渡邊が代表して参加しました。議事内容は①議案提案(1、障害児教育をめぐる情勢と課題、2 たたかいの経過と総括及び方針、3 全国障害児学級・学校学習交流集会に向けて)②提案に対する質疑・応答③提案に対する討論④討論のまとめという流れで行われました。

議案提案の情勢では「障害者基本法」が8月5日に公布されたものの、多くの問題点を含んでいることが指摘されました。理念法に関わらず「可能な限り」という言葉をさまざまな箇所を使い、逃げ道を作っていることや、通常学級在籍問題については「可能な限りその意向を尊重」という玉虫色の表現になりました。障害者総合福祉骨格提言では、理念の指針として「障害者権利条約」「基本合意」を生かし、立場が違う委員55人全員一致で決めた事が大きな成果であるとの指摘がありました。しかし、一般紙の評価は「無料のサービスは今の財政では絵に描いた餅」と揶揄されているものの、閣議でも了承された公文書であるため、これからの戦いの武器とし、私達の学びが提起されました。また、寄宿舎の役割を「通学」と矮小化するという課題もあるので、問題点をしっかり押さえる必要があることも指摘されました。特別支援教育特別委員会(特特委員会)の問題では「支援教室」の問題が指摘されました。このまま推移すれば、「支援学級」から「支援教室」になっていくと危惧されています。委員の1人は「支援教室の先生は専科の先生と同じと考えればいい。学習している時に責任を持てばいい。多くの時間を支援学級で過ごすパターンなど3パターンと考えればいい」と発言するなど、予断を許さない状況であることが強調されました。文科省は「どのようにしていけば決まっていない」というスタンスであり、今後の戦いが必要と指摘されました。過密過大の問題では設置基準を策定させる戦いが大きな課題であることが強調されました。「教員統計調査中間報告から」障害児学級担任の持ち時間は3.6時間増え、6パーセントの調整手当が付いているにもかかわらず、平均給与が一番少ない。臨時採用が多いと推測される事が指摘されました。今後は給特法の改善に向けた取り組みが必要であることが強調されました。

提案に対する討論では16件の発言がありました。北海道から渡邊と高教組の三田村先生が発言をして討論に参加しました。

討論のまとめでは、多くの組織が討論でも触れていた設置基準の問題が「喫緊の課題」と提示されました。障害児学級だけの条件整備だけではなく、「通常学級での発達障害を含む問題の事を含む条件整備を併せて行っていく必要がある」とまとめられました。また、討論で東京の教育条件に関わり保護者が自民党の都議を動かし、石原都知事に要求をあげたという報告から、いかに保護者との連携を作っていくのが戦いの大きな課題になると指摘されました。

全釧路障教部の  
紹介です



## 全釧路教組 障害児教育部の活動と近況報告

～子どもたちに寄り添うことを大切に～

全釧路教職員組合 菊地 哲史

全釧路教組障害児教育部は田中部長（白糠養護学校分会）を中心に、釧路市内、管内に数多くの組合員が特別支援学級に関わり運動を進めています。特別支援教育の動きと連動して釧路市内、管内ともに特別支援学級が増設される中で、毎年人が入れ替わることや増設の実態がつかみきれないことから、担当している組合員の人数（障教部員）が正確につかみきれいていません。それほどに特別支援教育に係る組合員が多いということでもあります。

本部障教部としては、年一回の総会が大きな事業ですが、合同教研での部会運営や全障研と協力しながら釧民教の部会運営にも責任を持って進めています。なかなか情報の発信などがうまくできていないので、障教部内での情報交換や課題の共有が十分とはいえない状況です。しかし全釧路教組には障害児教育に長く携わってきた先生も多く、それぞれの地域や学校で障害児教育や運動に関わってきた伝統があり、地域や学校の中に全釧路教組の障害児教育担当の先生に対する一定の信頼があることを感じています。たとえばそれは、合同教育のレポートや全障研の学習会などの中で語られる実践に深く子どもに寄り添う視点が現れていることに見て取れます。また釧路市支部の障害児教育部では、釧路市内の教育研究集会（年5回の開催で全教職員が参加できる）の中で釧路市支部として部会を持ち、その中で実践交流、情報交換、学習会、授業研などを行っています。このなかから要求がまとめられ障教部独自に対市教委交渉として話し合いを持つ取り組みも行われています。こうしたところに釧路教組、釧路市教組以来の障害児教育運動の伝統が息づいていることを感じています。

「一人ひとりの子どもに寄り添う障害児教育の実践」が特別支援教育体制の中でも引き継がれ、安易な方法論に流されず、子どもの発達や要求に寄り添う教育実践

についての議論を深められる素地がつくられていることに確信を持つことができます。今後もあらゆる機会を通じて特別支援教育の現状や課題をしっかりと共有できるように、本部障教部として情報発信ができる体制づくりを進めたいと思っています。

## 2011 合同教育研究全道集会報告

### その1

全道合研に参加して

余市養護 森田 宣彦

一日目の障害児教育の分科会でミニ講演二本と二日目の分散会では支援学級中心の実践報告を聞きました。一日目の片岡洋子さんの記念講演は、ボイスレコーダーに録音してもらったものを聞きました。

一日目のミニ講演は、教育と貧困の関係に取り組む二人の研究者の話で、数値を示して、グローバリズムの政策がいかに関係と生活をゆがめているか知ることができた。主要国の中で子ども達が自己肯定感を抱く子ども達の比率が、日本が一番低いという報告に、この国がかかえる問題の深刻さが現れているように思います。先日、国民の心の豊かさを指数で表すと、ブータンが一番高いという記事を目にしました。また、経済問題を抱えEUは揺れています、世界の街を紹介するテレビ番組からは、ゆったりと生活を楽しむヨーロッパの人たちの様子が伝わってきます。年々、賃金は切り下げられる今の生活の中で、この国の政治の矛盾を知ると同時に、心豊かに自己肯定感を持って生きることの意味を考えさせられた講演でした。

記念講演は、福島県で高校までをすごした片岡教授の、原発問題を考える授業を学生とともに取り組んできた実践の報告でした。3. 11以降、原発のことにに関して、何も知らなかったことを痛感していた自分にとって、「まず知ることが、大切」という片岡さんの話は、これから原発（原子力）の問題にどう向き合うか、その方向性を与えてもらえたように思います。

分科会では、養護学校高等部の事例レポート、檜山、釧路の支援学級の実践レポートの報告を聞きました。今年、初めて毎日宿題を出すような児童は担任することになり、学習内容をどうするのか、頭を悩ます毎日だったので、担任する児童のことをイメージしながら聞くことができました。教科指導をどう取り組むか、自分の問題意識としても、今後の北海道の障害児教育現場での実践の蓄積が求められるところだと思えます。

高等部の事例報告は、生徒との関わりを丁寧に追った報告者の人柄が伝わる好感をもって聞くことができました。

合研参加は、現場だけに埋没しては見えてこない、豊かで深い実践の世界を

垣間見ることのできる貴重な経験でした。

## その2

～障害児・障害者の教育と福祉分科会から～

全石狩札幌教職員組合 中川 雅人

11月5日（土）～6日（日）に行われた合研に参加しました。

一日目の講演では、子どもの貧困から見た世界と日本の状況、貧困と虐待など今の現状報告から、次に私たちが考えなければならないこと（子どもそのものを目的とする視点→社会的な「育ち」の仕組みの構築、「責任をとれる家族」をどう成立させるか→家族が「できる」ために必要な支援は？）への示唆をいただくことができました。

二日目は、全道から参加された方々のレポート発表を行いました。障害児部会はさらに3つの部会に別れて行いました。私の参加した第2部会では次の方々のレポートが発表されました。

高等養護学校で人間性の再生を 生徒と教師の自己肯定感を高める意味を考える 夕張高等養護学校 玉島 孝之	今、マニュアル化の波を越えて 子どもの内面理解と育ちを考えて 白糠養護学校 田中 豊一
「普通学級と支援員」+「あれから1年」 北見支援学校 能代 岳	「安里先生は辞任してください」と言うY君への自己認知・社会性を高めていく実践とは？ 上ノ国町立河北小学校 安里 朗
自立への希望と支援のはざままで 俺、一人暮らししたいんです！ 雨竜高等養護学校 関谷 元	

どうでしょうか。題名だけでも「聞いてみたい、どんな話かな？」と思いませんか。他の分科会でも、

生活に生かす・数を実感する算数の授業を 目指して～6年特別支援学級「のぞみ」にできる こと～ 厚沢部小学校 遠藤美由樹	読み書き力をつけるために 上ノ国小学校 菊地 涼子
地域のか～つながりが子どもを育てる～ 夕張高等養護学校 菱木 淳一	Mさんとの関わりを通して 札幌養護学校 下田 裕之
全ての学校に通級指導学級を 貧しい制度に子どもを合わせるのではなく どの子も輝く豊かな教育制度を求める 中標津東小学校 村上 徹	他にもレポートはたくさん出ていたの ですがもらいそびれました。（失敗、中川）

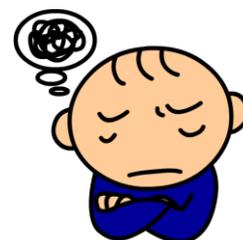
などなど、たくさんの発表が行われました。

さて、私の参加した第2部会では涙あり、笑いあり、うなりあり（うーんっと、うなってしまうこと）の一日でした。その一部を簡単に（誤りがあればごめんなさい）お知らせします。

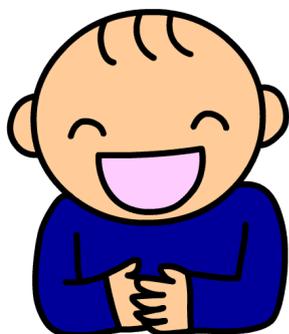


夕張高等養護学校 玉島 孝之先生からは、自己肯定感についてグループで検討された報告がされました。（生徒の自己肯定と、その生徒たちを取り巻く保護者や家族の自己肯定感は車輪の両輪。） また、雨竜高等養護学校 関谷元は高等養護学校卒業後支援の中で一般就労した生徒のその後の生活と、それを支える取り組みが、報告されました。

北見支援学校 能代 岳先生からは、特別支援学級において支援員として1年間関わってきた実践報告と、支援員の困難さを話していた



できました。上ノ国町立河北小学校 安里 朗先生からは、特別支援学級で題名のとおり「辞任してください」と言われた児童との今春から夏休みに校内キャンプを行っていく関わりの様子を正に目に浮かぶような表現で話されました。



白糠養護学校 田中 豊一先生からは体育や給食指導について児童の指導の経過を学年教員の共通理解しながら、指導内容の改善に取り組みされたことについて話されました。

（2012年2月11日のフォーラムで、上ノ国町立河北小学校 安里 朗先生、厚沢部小学校 遠藤美由樹先生がレポート発表をさせていただけることとなりました、拍手、拍手、拍手）

どのレポートについてももっと聞いてみたいな、と思いながらも当日の午前の司会をしていた私は、時計を見ながら「ああ、もう時間が無い、次のレポートに行かなくては、、、。」と、失礼ながら先に進めてしまうのでした。参加者も、教員の方ももちろん教育大学の学生、障害をもつ子の保護者の方も参加され、20名ほどの人数で分科会として自由に意見や感想を交わすにちょうどよい規模でした。

来年も同じ時期に開催されます。私のつたない文章ですが、レポートの題名を見て興味を引かれた方、「ふーん」と思った方。2日目だけでも半日でも良いと思います。みなさん会場に足を運んでみませんか。

# 北海道障害児教育フォーラム2012のご案内

特別支援教育体制の整備が進むなか、何か違和感を感じている方も多いのではないのでしょうか。今年のフォーラムは『発達保障の源流を探る』をテーマに、子どもの発達や成長をどうとらえるかを考えます。現場からの実践報告、全国や道内情勢の学習、映画『夜明け前のこどもたち』の上映と解説・講演という盛りだくさんの内容です。

大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

この映画の舞台となる「びわこ学園」は1963年に西日本で初めてできた、重度の障害のある子どもを支援する施設です。この施設で働く人たちが障害のある子どもの発達について考え、話し合い、実践していく様子が記録されたドキュメントです。障害児の発達を保障するためには何が必要なかが描かれています。

日時：2012年2月11日(土) 10:00～17:30

会場：札幌市手稲区民センター 2階区民ホール（札幌市手稲区前田1条西11丁目）  
JR函館本線 手稲駅下車 北口から徒歩5分（札幌より札幌発で1時間に4～5本程度、快速で10分程度、普通で16分前後）  
（手稲駅からは歩行者用の連絡通路があります）

参加費：一般：1500円 後援団体の会員：1000円 学生500円  
道教組組合員は、参加費補助が出ます。（無料となります）

主催：北海道障害児教育フォーラム実行委員会 後援：道高教組障害児学校部・道教組障害児教育部

## 道教組障教部 交流会のお知らせ

日時：2012年2月11日(土)  
のフォーラム終了後、道教組障教部  
で交流会を行います。

（手稲駅周辺の居酒屋で）

この交流会だけの参加もOKです。  
当日出欠を取りますが、「行く」と  
心に決めている方はこちらへ連絡く  
ださい。

E-mail

[ayataichi@msh.biglobe.ne.jp](mailto:ayataichi@msh.biglobe.ne.jp)

Fax 011-691-4157

（中川雅人宛：石狩札幌所属）

## 主な内容の予定

9:30～受け付け

10:00～開会挨拶

### 実践報告

- ・ 特別支援学校・特別支援学級の実践から

12:00～休憩

13:00～障害児教育をめぐる全国情勢の報告と  
学習

14:15～映画と解説・講演

講師：小淵隆司氏（北海道教育釧路校）

映画：「夜明け前のこどもたち」

17:30～終了

# 道教組障教部総会案内

道教組障教部部長 渡邊 悌

## 【総会日程について】

1、日時 2月12日(日)

AM10:30~PM 3:00

(常任委員会 9:00から)

2、場所 高教組会館

4F 2号3号会議室

3、当日の流れ

司会 中川、関谷

記録 森田

①副部長からの挨拶(竹内)

②議長選出

③新保書記長の報告

④土方全教障教部部長の紹介(渡邊)

⑤全教障教部部長の全国情勢(土方)

⑥議案提案(渡邊)

⑦アンケート結果報告(竹内)

⑧議案とアンケートに対する質疑・応答

⑨議案とアンケートに対する討論及び各単組の活動報告と情報交換

⑩討論のまとめ(森田)

⑪閉会の挨拶(竹内)



渡邊です!!

総会のご案内です。今年度5月14日(土)に総会を行っていますが、来年度に向けての総会を2012年2月12日(日)に行います。様々なメディアを使ってお知らせしてきましたが、今年から総会を障害児フォーラムの次の日に変更しました。ねらいは障害児フォーラムに参加した後、交流会を行い、次の日に総会に出るという流れを作ることで、今年の常任委員会で設定した目標、「学習」「交流」を実現するためです。

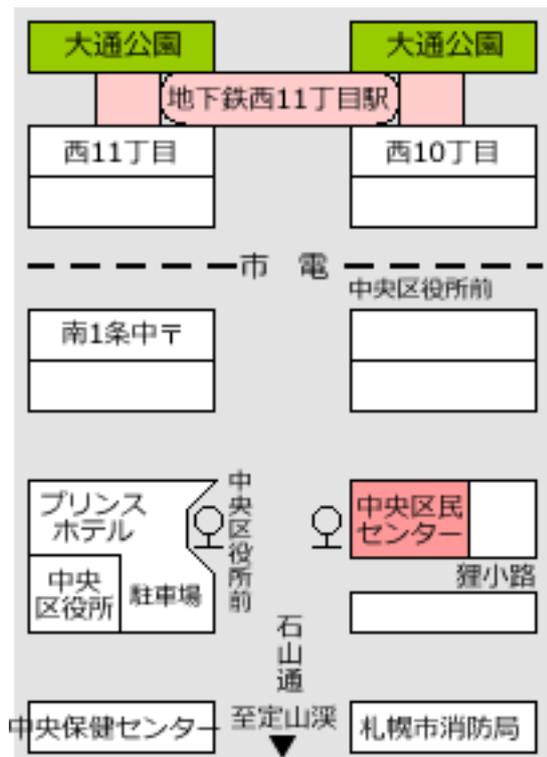
場所は中央区民センターにしました。全教障教部部長の土方さんに全国情勢を語っていただけることになり、高教組障教部総会と掛け持ちで出席していただくため、移動の配慮をしたためです。くれぐれもお間違いなくお越しください(下記地図参照)

札幌市中央区民センター

札幌市中央区南2条西10丁目

電話：011-271-1100

総会の日程を上述しました。今年の総会では全教障教部部長の土方さんの全国情報が聞けるほか、久しく途絶えていた、常任委員会として北海道の状況分析と活動の総括、方針を討議の中心に置きました。また、アンケートの結果を受けての各地の状況も議案書に添付しています。⑥、⑦、⑧、⑨で道教組障教部としての活動の総括を掘り下げて出来ると考えています。是非、多くの参加者からの発言を頂き、議案を補強して頂くと共に、掘り下げた論議にして頂ければと考えています。フォーラムに参加し、交流を深めて、総会に参加して頂きたいと考えています。



# 北海道障害児教育フォーラム2012参加申込書

(道教組関係は下記でとりまとめます)

FAX: 011-691-4157 または ayataichi@msh.biglobe.ne.jp(中川)

勤務先学校名・所属など \_\_\_\_\_

連絡先など \_\_\_\_\_

氏名	所属単組など	交流会参加
		参加する・参加しない

## 道教組障教部 交流会のお知らせ

日時: 2012年2月11日(土)

のフォーラム終了後、道教組障教部で交流会を行います。

(手稲駅周辺の居酒屋で)

この交流会だけの参加もOKです。